

ユーカリの推進と面積拡大

農業技術振興センター農業革新支援部

【普及活動のねらい・対象】

転作地や中山間地等の水田を活用したユーカリ栽培を令和2年度から推進し、栽培面積の拡大を行っています。導入品種の「ブリッジシアナ」は頂芽優勢が強い性質があることから、樹形管理の技術確立に取り組みました。また、県産ユーカリのブランド力向上を図りました。

【普及活動の内容】

ユーカリの栽培面積を拡大するため、地域農業普及指導センターおよびJAと連携して新規栽培希望者研修会を開催し、生産者の掘り起こしを行いました。

定植3年以降の樹形管理の技術確立に向けた調査ほ場を2か所(甲賀市、東近江市)設置し、地域農業普及指導センターと連携して徒長枝の切り戻し剪定や主枝折り曲げ処理が切枝数に及ぼす影響を調査しました。

ブランド力向上に向けて、県統一のユーカリ用出荷箱の作成に向けた企画会議を開催し、6月に仕様を協議し試作品を作成しました。7月には試作品を基に梱包の作業性や輸送耐久性を検討し、改良を重ね、実際に今年度の出荷に使用して出荷検証をしました。

【普及活動の成果】

生産者の掘り起こしにより、令和4年7月現在で栽培者数77名となり、植栽面積は508 aとなりました。

樹形管理技術は、頂芽優勢の強い品種に対して処理することにより、切枝数の増加が見込めることが分かりました。次年度以降も継続調査を行い、技術確立を図ります。

出荷箱は切枝長90cm×50本を梱包できるサイズとしました。3月まで出荷を検証し、次期作に向けた評価および検討を実施して統一箱の完成を目指します。

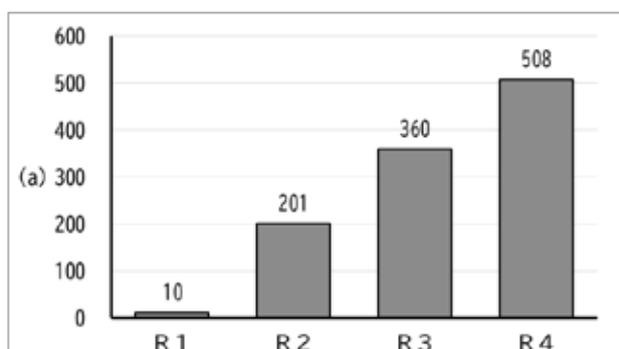


図1 ユーカリの植栽面積



写真1 徒長枝の切り戻し剪定技術を調査(甲賀市)

◎関係者の意見

ユーカリ栽培を始めてからの3年で、地域特性や品種特性(特に耐寒性・耐湿性等)を把握することができました。今後は、他の枝物と組合せながら栽培面積の拡大に取り組み、市場や実需から求められる産地づくりに取り組みたい。(JA担当者)